



2016年9月1日

お客様 各位

日本ストラタステクノロジー株式会社

**2017年1月1日に実施される「うるう秒」挿入の弊社ソフトウェア製品への影響について**

拝啓 貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。首題の件につきまして下記の通りご報告申し上げます。

敬具

記

1. ご案内

日本時間の2017年1月1日(日曜日) 午前8時59分59秒と午前9時00分00秒の間に、「うるう秒」として「8時59分60秒」の挿入が予定されています。

弊社ソフトウェア製品における「うるう秒」の影響についてご報告いたします。

2. 「うるう秒」の影響について

**everRun製品(Enterprise/Express)**

everRun製品(Enterprise/Express)につきましては「うるう秒」の影響はございません。

● **NTPを使用して時刻調整を行っているシステムの場合**

当該システムがNTP(Network Time Protocol)クライアントとして機能している場合は、2017年1月1日9時以降の同期により時刻が調整されます。

● **NTPを使用していないシステムの場合**

調整が必要な場合は2017年1月1日9時以後、手動で調整してください。



## Avance 製品

Avance製品ではRHEL(Red Hat Enterprise)のカーネルを使用しています。バージョンR4.0.0.10以下のAvanceバージョンでNTPを利用しているシステムはRed Hat社の公開情報より下記の影響を受ける可能性があります。

尚、バージョンR4.0.0.11では、本問題の影響を受けません。

### [問題]

「うるう秒」の挿入通知を受け取った後に、システムが無応答状態に陥る場合がある。

### [対処方法]

「うるう秒」の通知をカーネルからクリアするために「うるう秒」挿入前にNTPサーバーの参照設定を下記の方法で変更してください。

NTPサーバーからのデータにLeap Indicatorがセットされる以前(うるう秒挿入の24時間以上前)に、Avance管理コンソール上でNTPサーバーの参照を停止("Date & Time"でManuallyを選択)していただき、「うるう秒」挿入後に再度有効("Automatically"を選択)にすることで、この問題を回避できます。

設定変更に伴い下記メッセージダイアログが表示されます。

“Updating the date & time may cause your Avance Unit to restart.

This temporarily stops all running VMs.After restarting,all VMs will return to the state they were in prior to the restart.

Would you like to update the Date & time now?”

メッセージダイアログで”OK”をクリックするとAvanceが持っている時刻とNTPサーバーとの時刻のずれ幅によりAvanceが再起動される場合があります。(設定を”Manually”から”Automatically”に戻す際も再起動が行われる場合があります。)

Avance再起動の際は、自動的にVMが停止状態となるため、設定変更は業務影響の少ない時間帯にて実施をお願いいたします。

ご参考までに、弊社環境のAvanceシステムにて「うるう秒」挿入の検証を実施しましたが、上述の問題は発生しておりません。



### 3. 対応方法について

ご利用中のAvanceシステムをバージョンR4.0.0.11へアップグレードすることで本問題を回避できます。

バージョンアップが困難な場合は、弊社検証結果よりRedHat社公開の問題が必ず発生する訳ではございませんが2項記載の方法にて問題回避を行うことを推奨いたします。

また仮想マシンおよび仮想マシン上で稼働しているアプリケーションに対するうるう秒の影響については個別にご確認ください。

### 4. 関連リンク

Resolve Leap Second Issues in Red Hat Enterprise Linux

<https://access.redhat.com/articles/15145>

「うるう秒」挿入のお知らせ

<http://www.nict.go.jp/press/2016/07/08-1.html>

本件についてご質問等ございましたら、保守契約のもと弊社サポート窓口までご連絡ください。

以上